



禁煙外来で血管内皮機能検査を活用



国際医療福祉大学 塩谷病院

SHIOYA HOSPITAL

呼吸器内科部長 梅田 啓 先生

禁煙外来で血管内皮機能検査をおすすめしています

禁煙は肺癌や慢性閉塞性肺疾患(COPD)などの呼吸器疾患に加え、心筋梗塞など循環器疾患の予防のために重要です。禁煙を望む患者さんに禁煙治療薬バレニクリンを使用する方法が近年広く行われています。当院ではこのような患者さんに血管内皮機能検査(FMD)を受けることをお勧めしています。全例ではありませんがFMD値に改善傾向が認められることが多く、禁煙達成とともに血管の健康状態が良好となったことを実感していただいています。禁煙が成功すると体重が増えることが知られています(実際その通りです)が、血管に対しては体重増加による悪影響よりも禁煙による良い影響が上回っていることが推察されます。

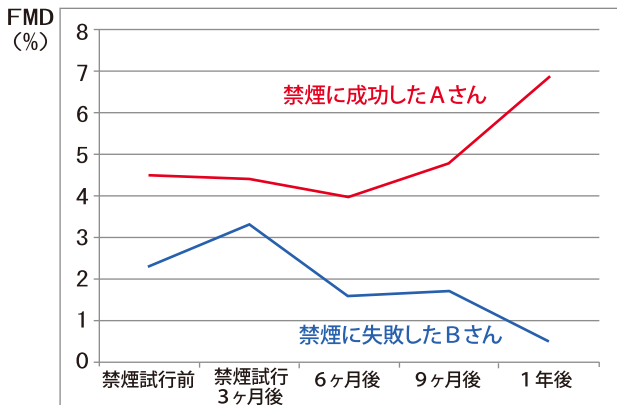


図1 禁煙に成功したAさんと失敗したBさんのFMD経時変化



禁煙で血管内皮機能が改善

FMDは超音波を用いた検査で苦痛がほぼなく、多くの患者さんが薬剤による禁煙治療終了後も3カ月ごとのフォローアップのための再診に気持ち良く応じてくださいました。20分以内で検査が終了しその日のうちに結果を教えられることも、患者さんの受け入れがよい理由のひとつと考えます。禁煙後3カ月でFMD改善が認められることもありますが、1年くらい観察するなかでFMD改善が明確になることがあります(図1)。一方禁煙に失敗された方についてもフォローアップしてみると(例数は少ないですが)血管内皮機能が悪化していくことがうかがわれました。この方はバレニクリン使用中も時々吸っておられました。3か月過ぎより徐々に本数が増え、6か月過ぎ確認した時には毎日喫煙されておりました。

FMDは血管内皮から放出される一酸化窒素(NO)の働きを見る検査であり、その結果は血管の健康状態を反映すると言えます。心血管イベントに関して近い将来の鋭敏な予測指標になるかどうか(どれだけ改善すればどの程度リスクが下がり安心できるのか)現段階では明確ではありませんが、長期間にわたってよい値を維持するように努力することは有意義であると考えられます。禁煙を継続する重要性をよく理解していただくために有用な検査方法であると考えられます。



株式会社 ユネクス
www.unex.co.jp

〒460-0008
名古屋市中区栄2-6-1 RT白川ビル401
TEL : 052-229-0821 FAX : 052-229-0823

2013年7月作成 UPMD 1-EF38GJP-50601